



【Press Release】

電気自動車普及協議会
Association for the Promotion of Electric Vehicles

会員、報道機関 各位

2013年10月31日
電気自動車普及協議会
会長 福武 総一郎
代表幹事 田嶋 伸博
幹事 鈴木 高宏

2013 International Green Island Forum等

参加のご報告

拝啓 皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

電気自動車普及協議会(以下 APEV)では、去る9月10日～11日に大韓民国済州島で行われた「2013 International Green Island Forum」に参加いたしました。下記に概要をご報告申し上げます。

—記—

「2013 International Green Island Forum」

日時:2013年9月10日(火)～11日(水)

会場:済州国際コンベンションセンター(ICC)

(大韓民国済州特別自治道西帰浦(ソギポ)市)

共同主催:済州特別自治道、国会知識経済委員会、国会環境委員会、IUCN、UNEP

共同主管:済州道エネルギー公社、済州道開発公社、JDC、韓国電力、DAUM、POSCO、

三星重工業など

【参加内容】

「2013 International Green Island Forum」

1. 9月10日(火) 鈴木幹事講演、およびフォーラム参加各国講演者と懇談
2. 9月11日(水) 済州特別自治道政府企画室長ほか関係者と懇談、
来年2月予定の済州EVエキスポ等について意見交換を行う

済州島では、国を挙げて推進に積極的なスマートグリッドの国際的先進実証地として様々な企業団体により各種フィールド実証が行われており、毎年国際フォーラムを開催しています。

今回の参加は元々、鈴木幹事が在任していた長崎県がEV実展開の実績から招待を受け、講演を依頼されたことによります。と同時に来年2月に濟州島での開催を計画しているEVエキスポに対し、前月に濟州島関係者が来日しAPEVへも協力依頼があったこともあり、この機会に現地にて懇談・意見交換を行うとともに、濟州島におけるEV普及関連の取組の現状を視察調査してきたものであります。



Forum招待者・関係者(後列左から二人目が鈴木幹事)



Forum会場での講演風景

Forumにおいては、韓国各地域の島のほか、タイ・プーケット島、東ティモール、南米ガラパゴス島など世界各地にあるグリーン島の事例発表がありました。その中でも、鈴木幹事が「Nagasaki EV&ITS Project - A Challenge to Construct New Society Model from Islands -」というテーマで講演、長崎県五島列島でEVを中心に豊かな自然と先端技術が調和した次世代型の地域社会モデルを提案し、世界各地からの参加者の注目を集めました。

その後の地元有識者らによる総括討論では、鈴木幹事に濟州島における普及策への意見が求められるなど、わが国におけるEV普及の先進的な状況が世界において指導的立場にあることを印象づけると共に、その知見・経験を広く発信していく責任を強く感じました。



Forum参加者全員での集合写真(前列右から5人目が鈴木幹事)



Forumで質問に答える鈴木幹事

翌9月11日には、現地でグリーン島として造成を行っているGapado(加波島)を訪問し、そこでの実態の視察と韓国各地で行われているグリーン島の事例発表がありました。Gapadoは濟州島の南西に浮かぶ一周約4km、人口180人程度の全体になだらかな小さな島です。現在は重油による内燃力発電で主な電力をまかなっていますが、これを太陽光と風力により100%再生可能エネルギーで供給するエコの島にしようという計画が進められており、その計画に欠かせないのが大容量の定置型蓄電池とEVとなっています。

EVは現在6台が配備されており、うち貨物用が4台、残り2台は住民の移動用ということでした。村長自らEVを運転し日本視察団の荷物等を運んで下さったりしたのですが、小さい島ながらもこのように人や荷物が沢山乗せられる車はニーズが高いことを主張されていました。島はなだらかな地形ゆえに水供給の問題があり、雨水を貯めて使っているほか、飲料水は本島から毎日運んでおり、この他に非常時等に備えて淡水化施設が設置されています。こうした施設の稼働にも安定した電力供給が必要であり、上記の定置蓄電池とEVが重要な役割を果たします。

若干意外だったのは島に若者が非常に多く見られたことです。これは風力発電の建設等で来ている人が多いのに加え、韓国内でも良い漁場となっていることから若い漁師も多く暮らしているとのことでした。これまでも自然に親しむ体験プログラムを行った際にはその収入を住民に還元しており、このようにエコ活動による収入を住民に還元する仕組みは非常に重要であることを実感しました。



Gapadoの全体地図



Gapadolに配備されたEV



EV用充電スタンド



発電所敷地内に設置された定置型蓄電池



淡水化施設の記念碑

その後本島に戻った後は、EV充電インフラ総合管制センター(Jeju EV Service株式会社)においてEV充電器の管理システムの説明を受けました。済州では赤字覚悟で乗り出したことで、済州島全土のEV充電器(急速60基)を網羅したEV管理ネットワークが既に構築され、あとはEVの普及を待つばかりといった状況になっています。ただ、済州全体でのEVが約240台という中、管理システムに登録されているのはわずか数台に過ぎず、一般のEVユーザがこのサービスを必要とするにはまだ時間を要する模様です。



Jeju EV Service Co.,Ltd.



濟州島の充電器インフラ分布図

また、その後はタクシー会社を訪問し、ここで実証が進められているEVタクシーとバッテリー交換ステーションの見学を行いました。バッテリー交換システムはコスト削減のため半自動化といったものであり、作業員2,3名と数分の時間を要していたことからまだ課題が多いことがうかがえます。



タクシー会社で用いられているEV



バッテリー交換方式をテストしている

電気自動車普及協議会では、このように国内外の交流を活発に行い、EV普及により子供たちの未来に美しい地球を残すべく活動を続けてきました。このように国境を越えた連携により、互いの先進事例を共有することで、より良い形でのEV普及社会への進展の加速化が行えるものと思います。

今回の訪問の中でも、韓国の関係者らと様々な形での連携について活発な議論が交わされました。今回は濟州特別自治道政府および各地方政府・現地企業団体・大学等の主催者・関係者のご尽力により、国際的なネットワークをより拡げることができました。深く感謝申し上げます。APEVでは今後もこうした国際的な連携活動に積極的に取り組んでまいります。

以上

*** 電気自動車普及協議会では会員を募集しております。**

お気軽に事務局までお問い合わせください。

お問い合わせ先:

電気自動車普及協議会 (Association for the Promotion of Electric Vehicles: APEV)

事務局 安嶋 言一郎(ヤスジマ ゲンイチロウ)

〒160-0023 新宿区西新宿 6-10-1 日土地西新宿ビル 8F

電話: 050-3736-8325 E-mail: info@apev.jp Website: www.apev.jp